

自然と人がともに生きるまち



■ 扶桑町 F U S O

扶桑町は愛知県の西北部にあり、東は犬山市、西は江南市、南は大口町、そして北は木曽川をへだてて岐阜県各務原市に接しています。土地はおおむね平坦で北に高く、南にやや低く、総面積11.18km²、濃尾平野の一部をなしています。

町内には古墳もあり、かなり古くから木曽川の恵みを受けて人が生活していた形跡があります。しかし400年ほど前まで、その木曽川の氾濫によって先人は大変な苦労を強いられてきたという歴史もまた事実です。木曽川堤防の完成後は、時々水害にみまわれながらも繁栄し、明治39年高雄村、山名村、豊国村、柏森村が合併し扶桑村となり、昭和27年に扶桑町が生まれました。扶桑という名が示すとおり、以前は養蚕で栄えた桑畑の多い土地柄でした。かつて桑畑が広がっていたであろう大地には、今ではおいしい「守口大根」が根を生やし、また、神社や寺院の式典にはかかせない「つまおり傘」を代々つくる工房があることも、わたしたちの町の誇りのひとつです。



守口大根

○ 守口大根

お漬物の逸品、全国の生産量の約65%が扶桑町で収穫されています。江戸時代に中国から伝わり、当時からお漬物として大名に献上されてきました。名前の由来は、大阪府の守口市付近で最初栽培されていたという説と、最初に栽培した人物の名が守口という説があります。細長いのが特徴で普通直径2～3cmで長さ1m20cmにも成長します。なかには1m80cm以上になるものもあり、世界的にも珍しい大根です。

○ つまおり傘

骨の端を内側に折り曲げた長柄の傘のことで、その昔公家や僧侶、武家などが用いていました。絵巻物などでも、よく馬上の貴人に後ろからさしかけられた長い柄の傘をみかけますがこれなどがそうです。最近では茶の湯の野点の席に風情を添えたり、料亭や旅館、和菓子店など店舗でも多く使われ、オリジナルの色や紋を入れることもあります。400年以上、14代にわたり製作を続ける尾関朱傘製作所では、今なお伝統の技法が守りつがれています。



つまおり傘

扶桑町のホームページ <http://www.town.fuso.aichi.jp/>